

木綿 衾の着流し

おろおろ 中 八

子母 2.5 月 寛

お母の杉本屋のしるし

2 筆者の親しくして世に いる 静岡 西草屋の

村山 雨村 高 話に よる 当日 辰五郎 は羽織

袴の 地 には 通し 風貌の 侍一人と 連立

先きに 杉本屋へ 来り 次郎と 結ぶ 何しろ

唐吉 之の 家 上 減法 なる 家に 入り 中作

娘が 事 火防 市 とい 結 には 日 来一

う 親 守 び 次郎 さん には 来り 世に 2 と ころ

と 知 った ち 静岡へ 何 かい

丁 長 杉本 港に 用 射 あり あり 港 かる 三保を 見

る 指 め 杉 別 ち かし 市 手と 中し ち あり 矢 礼

か かい 多 時に 杉 本 さん にお 目 にか たり とい

う 如 像 次郎 是 ち ころ かし 静 あり 静 とい

に 違 ない ち とう 辰五郎の 下 かり や

お母の 杉本屋の しるし